

令和5年度 さぎなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施。自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・感染予防策に努めながら、園外活動や行事等（親子参加行事）を充実させることができた。子どもたちの健康や安全を守るため、職員全員で感染予防対策を意識し取り組めた。特に園外活動では、芋ほり遠足（中城村芋畑）や山登り遠足に向けての散歩、体力づくりなど、子どもたちにとって活動の幅が広がり、充実した園外活動となった。
- ・園庭あそびや散歩、戸外遊びなども多く取り入れ、身体を使った遊びに参加し、子どもたちの体力向上に努めることができた。
- ・保育者は、日々の保育業務に加え、感染予防対策に努めながら、子どもの健康と安全に配慮し、成長発達に応じた保育計画を立て、一人ひとりに寄り添って保育に取り組むことができた。
- ・園外研修は、オンライン研修が充実し、積極的に参加することができた。また、園内研修では、キャリアアップ研修で学んだ知識をその他の保育者に研修を通して伝えたり、クラス担任によるクラス運営や園児に対する配慮や手立てなどを情報共有したりと、保育者の知識や技術の向上に努めることができた。
- ・園の行事は、感染予防対策を十分に考慮しながら、運動会・おまねき会・せいかつ発表会を開催することとなった。その際は、保護者へ手指消毒と体調管理に十分注意してもらった。また、職員は、会場内のこまめな換気や消毒、また参加者が密にならないような配置となるようなスペースの確保を心掛けて行動することができた。

地域交流 ⇒ 近隣の保育園の年長児との交流会を月1回行い、黒潮公園にてゲーム遊びや虫取り、木登りなど、小学校に進級した際に友人関係の構築につなげられるように配慮し取り組むことができた。

また、ハロウィンでは地域の企業や事業所、公民館と一緒にイベントに参加し、地域の方々に支えられながら行事を楽しむことができ、勤労感謝の日には、日頃お世話になっている企業や事業所、公民館を訪問し、感謝の気持ちを込めて、お礼回りを行った。

田植え活動については、今年度は、金武町のJAおきなわの協力のもと、お米の種を頂き使用した。

保育者と子どもたち、地域の方が一緒になり、もみの選別、稲の種植え、田植え、稲刈り、脱穀と一連の流れを体験することができた。また、もみの選別では、選別の際に使

用する海水は、年長時が泡瀬干潟まで散歩をしながら汲みに行き、体験することができた。

収穫できたお米は、台風の影響で収穫時期が早く、わずかではあったが、子どもたちと一緒にもちつき会を行い、鏡餅を作って楽しむことができた。

また、田んぼ活動を通して、土や稲に触れ、稲が生長する喜びや楽しみを体験し、多くの学びに繋がった。また、泥土に触れ、感触を味わい、水の中の生き物を観察することで子どもたちにとってよい学びや体験、感性に繋がったと思う。

今回の学びを踏まえて、次年度も地域交流活動を積極的に行い、子どもたちにとって多くの体験と学びの場を得られるよう関わっていきたいと思う。

●今年度の気づき

今年度も引き続き感染予防対策を考慮しながらの保育実践となった。社会状況に応じて行動制限やマスク着用の緩和がみられたこともあり、子どもたちの生活と遊びをより良いものにするための保育実践を創意工夫し、園外活動や行事、戸外遊び等を全職員で取り組むことができた。

どのような環境においても、日々考え学びながら、子どもたちの安全と安心を守り、生活とあそびを提供することで保育者としての専門性を高められたと思う。

今後も、子どもたちの成長を見守りながら、保育者ひとり一人が日々精進できるよう、保育実践に取り組んでいきたい。

●次年度の目標

- ・園の方向性を確立し全職員で情報共有をしっかりと行い、日々の保育に努め、子どもたちにとってより良い環境を整え、保育計画・保育実践に繋がられるようにする。
- ・観察、記録、工夫、計画、行動の保育の基本を身につけ、報告・連絡・相談、確認を徹底していく。
- ・保育研究大会の発表に向けて、研究チームが中心となり、職員会議の際に職員の勉強会や情報共有をはかりながら、園全体で研究に取り組んでいきたい。
- ・地域の事業所や企業、公民館と一緒に地域交流を深め、園外活動や食育活動を継続する。また、保育者は、地域交流の内容を記録して残し、保護者に対しては、掲示物等で園での取り組みや活動についての情報を継続して発信する。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返ることができた。日々の保育業務に加え、感染予防対策を常に意識しながらではあったが、園外活動や行事、戸外遊びの活動の拡大につながったことが、地域交流や保護者参加行事の幅も広がった。よって、保育者は変化していく社会状況を踏まえ、日々考え、努力しながら、保育実践に繋げることができたと思う。

また、報告・連絡・相談・確認、情報共有の重要性や、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組むことの大切さを実感し、園内外の研修における学びの場の大切さを実感することができた。今後の保育実践において、保育計画に基づき、地域交流や食育活動、戸外遊びを通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋がっていきたいと思う。